

令和二年度交通安全ファミリー作文コンクール優秀作品集の発刊に当たって

昨年の交通事故による死者数は、二千八百三十九人で、警察庁が統計を保有する昭和二十三年以降最少となり、初めて三千人を下回りました。

しかしながら、今なお多くの尊い命が交通事故で失われていることには変わりなく、子供や高齢者が歩行中に犠牲となる事故も、依然として後を絶ちません。

交通事故は、国民の誰もが当事者となるおそれのある身近な問題です。安全で快適な交通社会を実現するためには、国民の皆様一人一人が交通ルールを守り、自動車や自転車の運転者、歩行者がそれぞれ相手の立場に配慮し、思いやりの気持ちをもって交通マナーを実践していくなど、積極的に交通安全に関わっていくことが必要です。「交通安全ファミリー作文コンクール」は、家庭、学校、地域等において交通安全について話し合ったこと、また、これらを通じて思ったことや感じたことなどについて、作文を通じて国民の皆様が共有することで、具体的な交通安全活動の実践につながる取組として四十二年の永きにわたり続いてまいりました。

今年度から小学生の部・中学生の部の二部門となり、新型コロナウイルス感染症の拡大により休校となった学校もあった中ではありますが、小学一年生から中学三年生まで四千百八十九点の応募をいただきました。

本書は、その応募作品の中から、最優秀作（内閣総理大臣賞）を始めとする優秀作品をまとめたものです。この作品集を通じて、国民の皆様が交通事故のない社会を願う気持ちを共有し、そのことが更なる交通ルールの遵守と交通マナーの向上につながることを心から期待しております。

結びに、本事業の実施に当たり、御協力いただいた関係の方々に厚く御礼申し上げます。

令和三年二月

警察庁交通局長 高木 勇人